

視察調査報告書

委 員 会 名	総務企画委員会
参 加 者	委員長 酒井 正一 副委員長 佐藤 哲朗 委 員 加藤 史朗 野本 篤 磯部 亮次 杉山 智騎 畑尻 宣長 井町 圭孝 杉浦 久直
視 察 日 時	令和7年1月21日（火）10:00～11:30
視察先・概要	兵庫県西宮市 人口：48万2,151人 世帯数：22万1,878世帯 面積：99.96 k㎡
視 察 項 目	公共施設マネジメントについて
視 察 概 要	<p>1 公共施設マネジメントに係るこれまでの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年8月：西宮市公共施設白書の作成 ・平成24年12月：公共施設マネジメントのための基本的な方針の策定 ・平成29年3月：西宮市公共施設等総合管理計画の策定 ・令和4年3月：西宮市建築系公共施設個別施設計画の策定 ・令和5年3月：西宮市公共施設等総合管理計画の見直し <p>2 公共施設マネジメントに関する基本的な方針</p> <p>(1) 三つの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 財務：維持・更新等にかかる費用の抑制、無駄の排除 イ 品質：安全・安心・快適性、環境保全性の確保 ウ 供給：施設の供給の在り方、総量の見直し <p>(2) 施設総量（延べ床面積）の縮減目標</p> <p>平成21年度比で、令和14年度までに3.26%以上の施設総量を縮減、令和44年度までに20%以上の施設総量を縮減。平成24年度の基本的な方針においては、令和14年度までの中間目標を平成21年度比で10%以上の縮減と設定していたが、子供の数が想定よりも増加するなどの特殊要因の影響があり、令和4年3月に策定した西宮市建築系公共施設個別施設計画において、3.26%以上の縮減に修正した。</p> <p>(3) これからの方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ア ハコモノ系公共施設 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 上手に使う（維持管理の最適化） (イ) 長く大事に使う（施設性能の最適化） (ウ) とことん使う（施設機能の最適化） (エ) 身の丈に合わせる（施設総量の最適化） イ インフラ系公共施設 <ul style="list-style-type: none"> 安全性を重視した計画的な維持管理

3 西宮市建築系公共施設個別施設計画

(1) 建築系公共施設の現況

ア 延べ床面積約160.8万平方メートル（令和2年度末時点）

イ 住宅施設37.7%、学校施設34.6%であり、阪神・淡路大震災により、多くの震災復興住宅を整備したことで住宅施設の割合が高い。

ウ 建築後30年以上の施設が約58.6%

(2) 計画の目的

老朽化が進む建築系公共施設について、長寿命化によるもののほか、集約化や複合化、転用、廃止など今後の施設の方向性や対策方針を示すとともに、財政負担の平準化やトータルコストの縮減を図り、持続可能な公共施設マネジメントの実現を目指す。

(3) 計画の位置づけ

総合管理計画に基づき定める個別施設計画であり、計画期間は令和4年度から令和44年度の41年間。10年サイクルでの計画の更新を行う。

(4) 更新費用の概算

建物の物理的な耐用年数である80年を目標年とし、施設管理を行うことで竣工から65年で建て替えをした場合と比較して、全体では約112億円の減少と試算する。

4 本庁舎周辺公共施設再整備構想

(1) 基本方針

ア まちづくりと連動した公共施設の再整備

イ 市民の利便性向上

ウ 業務の効率化

エ 危機管理体制の強化

オ 維持管理コストの削減

カ 脱炭素化の推進

(2) 具体的手法

ア 公共施設の集約・複合化

(ア) 庁舎機能の集約化

(イ) 図書館の移転

イ 同種の施設を統合

(ア) 保健所関連機能の集約化

(イ) 市民会館（貸館）と勤労会館・勤労青少年ホームの統合

ウ 文化芸術施設の機能向上

アミティホールの再整備

エ 将来の建て替えを考慮した事業手法の選択

オ 資産の有効活用による財政負担の軽減

(ア) 建て替え更新時は仮設庁舎等を建設しない

(イ) 機能移転後の資産の貸付け・売却等による財源確保

	<p>5 現在の課題、今後の展開</p> <p>施設総量縮減の中間目標は、実情に即した見直しを行ったが、2062年度の20%以上削減目標については、さらなる努力が必要。</p> <p>令和5年10月に西宮市財政構造改善基本方針を定め、生涯学習関連、社会教育、文化等施策の一体的運用や地域づくりの活動拠点、幼児教育、保育の在り方に基づく公立幼稚園、保育所の再編に取り組むなど各事業の見直しを進めることで目標の達成を目指す。</p>
<p>所 感</p> <p>※視察しての感想や岡崎市への提言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西宮市の公共施設マネジメントでは2032年までに3.26%以上縮減、2062年までに20%以上の縮減を目標に掲げて取り組んでおり、施設ごとに評価を行い、長寿命化、集約化、複合化、転用、廃止といった判断しているとのこと。本庁舎周辺においては、長期的な構想を策定し、順次建て替えていくことで、仮設庁舎を建設しないことや一部敷地を定期借地による貸付けなど財源の確保も織り込まれていることは参考になった。公共施設マネジメントにおいては、本市の特徴に即して計画的に実施していくことはもちろんのこと、建て替えを実施する場合においては、その代替地や仮庁舎といった要素も検討する必要がある、財源の確保も含めて、前広な準備に努める必要があると感じた。 ・西宮市は阪神・淡路大震災で大きな被害を受け、復興支援住宅を多く整備したため、公共施設として、市営住宅の量が突出して多いのが特徴である。その他の点では、本市と同じように再編、集約化等により長期的に公共施設の総量の削減に取り組んでいた。公共施設マネジメントの大きな取組の一つである、本庁舎周辺公共施設再整備構想においては、30年かけて、段階的に各施設が移転、集約化等をして総量が削減されていく様子が、視覚的な図として整理され、一般の人々でも分かりやすい工夫がされていた。公共施設マネジメントは、資料の量も多く難解で、市民の多くが自分事にしにくいテーマであると感じている。本市においても、西宮市のようにポイントだけでも図や画像、映像等で示すことは有益ではないかと思う。 ・人口減少や人口構造の変化によって持続可能な行政運営をするためにも公共施設の見直しは必須であり、全国の自治体で共通の課題と言える。西宮市における公共施設の割合は他都市とは異なり、住宅系が38.1%と、本市の14.6%と比較しても多く、学校施設の34.3%も超えている。震災復興支援の為に住宅整備であったことから理解できるものであるが、将来的には住宅系公共施設の縮減が必要であるとともに、困難な課題と考える。老朽化による建て替えのタイミングで、スクラップ・アンド・ビルドを基本に、類似施設の複合化も視野に入れて対応していく計画であった。興味深いのは、住民の利便性を考慮して駅の近くに建て替えを検討しているところであった。費用対効果や効率は重要であるが、その前に市民を思う姿を見せてもらった。公共施設の見直し計画の資料は、図画を多用し、将来の動きが目で見て分かるものであった。公共施設マネジメントの動きは市民にも丁寧な説明に

よって理解を得ることが必要であることから、本市でも実施することを期待する。

- ・公共施設の床面積を最終的に減らすために、公共施設の統合化と配置転換を進めている。庁舎の建て替えと機能の集約化も含め、貸館施設も集約、統合化していく。20年以上かかる計画であるものの、理想的なものとも感じた。計画遂行中には、総床面積が一旦は増える時期があるものの、目的がはっきりしているため、市民の理解も得られているようである。本市においても、公共施設の統廃合は言葉としては、ずっと出ているものの、実施されていることは、僅かである。人口減少に向け、維持管理に莫大な費用が必要とされていることから、本市でも早急に取り組むべき課題と感じている。市役所の移転建て替え等についても、これを機に考えるべきでないかとも感じるところである。壊すことよりも移管であったり、売却であったり、貸付けであったりと、選択肢はあると考えられる。あとは、計画を本格化して、実施していくことである。
- ・施設総量の縮減の目標値を2032年までに3.26%以上、2062年までに20%以上縮減することとし、非常に細かく建築系公共施設個別施設計画を作成し、目標達成に向けて動いている。縮減だけでなく、必要なら学校の新設も行うところには驚いた。行政機能の再編を行い、県立病院も総合新病院として移転を行う。駅周辺の利便性や活用も考え、2050年頃までの都市計画を立てている。駅周辺の変化を、市民も事前に知ることによって将来のふるさとにも愛情が持てる。本市も公共施設については統合、縮減が求められ、必要となっている。しかし、東岡崎駅の再整備に伴い、駅周辺の再開発も最も重要な事案の一つである。本市も個々の施設で考えるのではなく、公共施設全体をいま一度整理し、再整備をする必要があり、強く求める。
- ・公共施設のマネジメントは、財源を確保する必要があることから、いかに、計画を立てて実行していくかがポイントだと思う。そういう状況の中で、「西宮市公共施設マネジメント読本」を作成していると聞いた。総論をまとめたものであるが、活用はされていないようであったが、本市としては、こういう総論を理解してもらった上で各論に入っていくことは大事なのではないかと感じた。あとは、スケールダウンも含めた縮減を進めていく内容の精査は必要であるので、本市に合ったマネジメントが進められるよう、公共施設マネジメントに関しての、総論の市民理解が深まるよう作成し、周知が必要であると考えている。
- ・西宮市の取組の中で、本市より優れていると思った点の一つに、施設が限定されているのかもしれないが、より具体的に、どのようにしていくかの明確なビジョンを示しており、さらに冊子のみで示すのではなく、ホームページ上で分かりやすく市民に公開していた。また、西宮市では市営住宅の戸数も減らしていく計画があり、建て替えの際に集約化する考えで、ある場所を廃止すると同時に、条件のよいところ

	<p>は大型化を検討するとのこと。条件のよいところの確認はできなかったが、例えば立地が非常によいところだとすると、そこは民間に貸して賃借料を取ることも可能と考える。本市でも、集約する場合は定期借地制度を利用して負担を軽減するなど、行政経営の視点を持って計画をつくってもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自治体で高度成長期に建てられたインフラが老朽化し、維持管理負担が増大する中、今回視察した西宮市は、市役所庁舎などの公共施設の建て替え移転、統廃合をグランドデザインを持って進めており、とても参考になった。また、その資料も、データ、図表、概念図などを用い、関心がある市民に対して分かりやすく作成されている点もすばらしく感じた。本市でも、いよいよ人口減少局面になってきているが、公共施設の縮減は、まだその緒に就いたばかりである。市民に対し、分かりやすい形で現状と将来性を示していくことが重要であり、またその中で、公共施設配置のあるべき姿が現れてくるように思われる。市議会においても議論が深まっていくよう取り組んでいきたい。
<p>委員長の総括</p>	<p>西宮市では既存の施設を最大限に活用し、建設コストの削減と効率的な運営を実現しており、この方法を財政的な負担を軽減しつつ効率的な運営を達成するための重要な手法として学んだ。</p> <p>西宮市における公共施設マネジメントの特徴は、老朽化した施設の修繕や統合を進めることでコスト削減と効率化を図り、適切な資産管理を通じて施設の長寿命化を実現していることと、2032年までに3.26%以上、2062年までに20%以上の施設総量の縮減を目指し、長寿命化、集約化、複合化、転用、廃止といった手段を効果的に活用している点である。</p> <p>具体的な数値目標を掲げ、それに基づいた戦略を立てており、将来的な人口減少を見据えた公共施設の縮減計画や、人口構造の変化に対応するための柔軟な施設運営が行われていることは、人口減少や人口構造の変化に対応するための計画としても非常に重要な学びとなった。</p> <p>本市では、公共施設の適正管理と持続可能な運営を目指し、公共施設等総合管理計画などの施策を通じて、公共施設の総合的かつ計画的な管理を図っている。西宮市のような具体的なビジョンと計画は、本市においても必要不可欠であり、将来の持続可能な行政運営、公共施設マネジメントに向けて積極的に取り入れるべきであると考えます。</p>